

科学技術高校

いきもの記

生徒による

Vol.121 2024.9.30

1年1組 千葉 美文
(科学研部生物化学班・鳥研究)

こんにちは、以前サギ山の記事を書いた鳥班新入り1年生の千葉だ。ありがたいことにたくさんの方々の助力と運に恵まれ、西表島フィールドワークに行くことができたので、龍平先生と昆虫班の濱田くんに続き、私からは西表島の野鳥について書いていこうと思う。

皆さんは**日本には何種類ものツバメがいる**ことをご存知だろうか。恐らく日本国民全員に知られている「ツバメ」をはじめとして、崖や橋桁などに営巣するイワツバメ、珍しいので個人的にもすごく見てみたいコシアカツバメ、穴を掘って営巣するショウドウツバメなどがいる。「アマツバメ類はどうした!？」と思った人は勉強不足だ。アマツバメはツバメと名がつくがツバメが所属するスズメ目ではなく、**アマツバメ目に所属している**。目レベルの違いは分類学上かなりの違いで、わかりやすくいうと**ネコ（食肉目）とヒト（霊長目）レベルの違い**がある。違いが大きいのに関わらず姿が似ているのは、似たような生活の仕方をしてきたからだ（収斂進化）。分類学の話はさておき、これらのツバメはまだ本土のみの話で、**沖縄には別にもう1種類のツバメがいる**。それが今回紹介する**リュウキュウツバメ**だ。

リュウキュウツバメを最初に見たのは1日目、フェリーが欠航したことにより石垣島で急遽実施した観察会の帰り道でのことだった。農耕地を歩いている時に**電線にたくさんのツバメが止まっている**と教えてもらったので早速鳥班の暖哲先輩と確認すると、**リュウキュウツバメとツバメの群れが電線に止まっているのが見えた**。しかし、沖縄にはリュウキュウツバメしかないと思っていた当時の私は、リュウキュウツバメが見れた喜びよりも先に「え？なんでツバメがいるの?」と思ってしまった。アマツバメ云々よりも私の方が勉強不足であった。いないと思っていたツバメがいることに驚き、自分の知識不足にショックを受けたが、気を取り直してツバメたちを観察した。すると、あることに気がついた。ツバメとリュウキュウツバメのシルエットはとても似ていることだ。パッと見だと全然両者の違いがわからないことにしばらくの間はかなり困ったが、日光の状態が良くなり、**シルエットから色までわかるようになると両者の違いは明白になった**。

リュウキュウツバメとツバメの違いは以下の2つだ。1つ目は喉の赤い部分の面積と濃淡、2つ目は尾羽の長さだ。右の写真の通り、ツバメは赤い部分が濃く、喉のみになっているが、リュウキュウツバメは、赤い部分が薄く、喉から額まで赤くなっている。また、ツバメの尾羽は2本に分かれていて長い、リュウキュウツバメは2本に分かれておらず、短い。

それらの要素のおかげで段々**目が慣れてくると識別も瞬時にできるようになった**。そして両者を見比べているうちに私はリュウキュウツバメの方に魅力を感じた。まず、リュウキュウツバメは尾羽が短いので**ずんぐりした姿をしており、ツバメよりかわいい**。私は鳥のことが大好きだが、今まで鳥を綺麗とは思ってもかわいいとはあまり感じたことがなかった。でも、リュウキュウツバメに限ってはかわいく見えた。そして、**喉と額の赤い部分は色が薄く、沖縄の伝統的な屋根瓦の赤さに似ている**。地域の伝統文化との相性も抜群だ。これほど地域色があってかわいい鳥はそういない。北海道のシマエナガのように多くの国民から愛され、グッズが発売されるような鳥になる日も近いかもしれない。

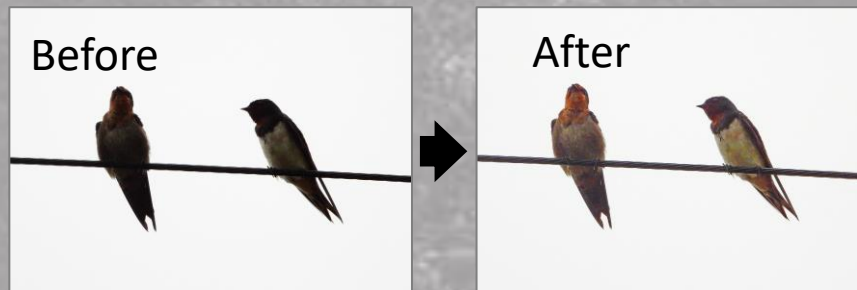
西表島特集⑦ 沖縄版シマエナガになれるか!?

赤瓦に映える鳥 リュウキュウツバメ



赤瓦とリュウキュウツバメ（石垣島）

喉から額にかけての赤色が沖縄の赤い屋根瓦の色と似ている。



リュウキュウツバメ（左）とツバメ（右）のシルエット。慣れるまで見分けがつかない。

編集でシャドウを上げる（暗色部を明るくする）と色が見えてきて両者の見分けがよく分かるようになる。